



AUTUMN

1999

NO.127

KOZMOS

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

<http://www.toyo.ac.jp/libra/>

CONTENTS

- 2 特集 「コスモス座談会」
- 6 国立国会図書館に行ってきました。
- 7 キャンパスめぐり 第2回 板倉図書館／蔵書紹介
- 8 お知らせ

卒業論文必勝 『図書館活用法』

卒業論文と図書館



図書館長 竹内 郁郎

現在卒業論文作成中の学生諸君は、いよいよ最終コーナーをまわって、最後の追い込みにかかろうとしている頃でしょう。

卒業論文の作成期間は、図書館との接触が最も頻繁かつ濃密になる時期でもあります。平生にも増して文献の検索、閲覧、帯出の機会が多くなり、図書館で過ごす時間も長くなることでしょう。現在、東洋大学が収蔵している約100万冊の図書、1万7千点余りの雑誌も利用されてこそ生命をよみがえらせ、真価を発揮します。図書館職員は、利用を待つ図書・雑誌と利用者との仲介する存在として、力いっぱいレファレンス・サービスを心掛けています。どうか遠慮なく相談して下さい。

ただ、卒業論文を書く段になって急に図書館を利用しようとしても、まごついたり、ためらったりして、結局また遠ざかってしまうことになりがちです。やはり平生から利用し馴れておくことが大事でしょう。授業のレポートを書くとき、新聞の広告や書評で興味をひかれた本を読んでみたいとき、気軽に図書館で探してみして下さい。また、開架書庫をぶらついてふと目にとまった本のとりこになるのも、図書館利用の醍醐味といえます。

さて、今回5人の先生方に語り合って頂いたコスモス座談会「卒業論文必勝『図書館活用法』」は、卒業論文作成にあたっての心構えや注意事項が懇切に語られています。評価のポイントまで公開されています。どうか先生方の本音のアドバイスを貪欲に吸収して下さい。さらにこのコスモス座談会は、現在卒業論文を作成中の諸君はもちろんのこと、これから書こうと考えている1年生から3年生までの諸君にも、是非読んでほしいと思います。そして一人でも多くの方が、学生生活の集大成としての卒業論文への意欲を高め、図書館の扉を叩いて下さることを願っています。

(図書館長・社会学部社会学科教授 たけうち いくお)

特集 コスモス座談会

卒業論文必勝「図書館活用法」

夏休みも終わり半月が過ぎ、そろそろ学園祭のシーズン。この時期、学部4年生と短期大学2年生には忘れてならないものがある。卒業論文である(以下卒論)。今回は資料の宝庫図書館が卒論指導のスペシャリストをお招きして、これから追い込みに入る人、来年以降の卒論作成に不安を抱く人達のためにアドバイスを頂いた。

穂山 幹夫教授(以下司会) 本日司会を務めます朝霞分館長の穂山です。今回の座談会は「学生が卒論を作成する上で図書館を有効に活用してもらいたい」ということが主旨です。10月に入りそろそろ卒論の追い込みの時期です。先生方に色々アドバイスをいただければと思います。

最初に卒論作成に対しての基本姿勢、卒論の意義について伺いたいと思います。

高城 功夫教授(以下高城) 文学部は必修科目ですので学生の積極的な姿勢を望んでいます。卒論は4年間の総結晶であるという認識から始めてもらっています。

清澤 文彌太教授(以下清澤) 工学部の場合、実験や製作の結果で卒論が出来るという事で、論文の内容



高城 功夫 (文学部国文学科教授)



穂山 幹夫 (経営学部商学科教授)

より研究のプロセスを重視する傾向があります。

三宅 和子助教授(以下三宅) 短期大学で卒論が必修なのは日本文学科だけですが、短大といえども高等教育機関であるという事で、研究するという姿勢を学んで欲しい。社会に出ても論理的思考を行う事は重要であると考えています。

植草 益教授(以下植草) 学生にとって、論理的思考を持って物を作り上げるというのは卒論が唯一でしょう。研究を受ける側から自分で一定の物を作り上げるという事が非常に大事です。

司会 初めて、クリエイティブな活動をする、これを行うか行わないかで大学へ来た価値が大きく変わりますね。卒論評価のポイントで、先生方は出来上がった論文に対しどんな点を見ているかを伺いたいと思います。

高城 よく、学生の中にはレポートと論文を間違える人がいます。論文は結論だけではなく「論じる」部分がなければいけない、本学の入学案内にも「なぜだろう?」と書いてあります。自分で調査し検討し、種々考察することが出来た卒論は評価を高くつけます。逆に剽窃・盗作は、我々が見ればすぐ分かることですから、そういう卒論に合格点はあげられません。

植草 経済学部は独特な方式で評価しています。こんなに熱心な指導をしている大学は他にはないと思いますが、全教員で副査になり形式面と内容面で評価をします。ポイントは人の文章は引用しても良いが、そこで自分の論理が展開できれば良いし、展開できなければ論文ではないということです。また、参考文献の提示はきちんとすること。それと、全体に緊張の糸が貫かれていなければ駄目だということです。

三宅 スタートの時点でテーマの選び方が問題です。それは種類ということではなく、大きさですね。手に負えないような大きなテーマがあるかと思うと、論文ではなくレポートで済むようなテーマの選び方を。卒論というのはある限られた時期に自分のレベルでどのようなことが出来るか、というのを掴むこと。それを上手くやれた学生は良い論文を書けてきます。

清澤 工学部では、指導教員が「こういうテーマがある」と提示して、ある程度方向を示さなければなりません。そうすると教員に言われたことをやっていたらよいと他人任せな姿勢になってしまうので、どこかで突き放して、そのうち一人で走り出すように仕向けます。卒論の評価は出来上がった論文だけでなくどのようなステップでやってきたかで評価されるのが殆どだと思います。

司会 その論文を書くことの意図がどれくらいはっきりしているか、それについてどれくらい熱い思いを掛けたか?ということですね。ところで、最近の学生は本をあまり読みませんね。卒論の技術的内容について特に注意する点、例えば文献を深く読んでいるか、基本文献をどれくらい渉猟しているかということも大きなポイントになると思いますが。

清澤 工学系の場合には、図書と言うよりは学会誌などの雑誌が主体になると思います。それをいかに探るか、そして自分のものにするか、特に研究を始める前に図書館の利用を勧めています。研究テーマ

が決まったら、国会図書館や、専門図書館に行って資料を探すのも勉強だろうと思います。

植草 卒論を書くとなると、本は読まなければなりませんから、かなりの量と深く読むことを経験するのではないのでしょうか。テーマの設定の仕方を余程忍耐強くやらないと、それを自分たちで考える事も大事なんですが、考えるプロセスを作ってやるというのが非常に大切です。研究テーマを絞った学生ほど良い論文になりますね。それと、あまりトピカルなものは資料がないので成功しないと思います。

司会 図書館の積極的な利用については?

高城 文学部は図書館の資料を使わないと仕事になりません。本学の図書館、国会図書館、国文学研究資料館などに足繁く通い、自分の関連論文を収集しなさいと言います。一番困るのは、見つけた文献をコピーしただけで論文が出来上がったような気になって安心してしまっている人がいることです。活用しなければ意味が無い。他大学に資料があった場合は、相互閲覧の紹介状を書いてもらえるし、コピーの依頼(文献複写依頼)もできます。最近は文献がデータベース化されていてCD-ROMもあるので、図書館にせっかく入っている資料を活用してデータに基づく自分の論を打ち立てられるようにと指導しています。



三宅 和子 (短期大学日本文学科助教授)

三宅 学生に強く言っているのは、論文を見なさいと言うことです。書籍は体系的に述べられていて、役に立つのですが、論文には新しい情報がある。雑誌で大学の紀要などを集めたものがあります。研究の方法、どのような考えでそれがなされていたか、かなり細かいところまで載っています。学生のレベルでも理解しやすいものが多いので役に立ちます。

植草 テーマが決まったら参考文献表を作ることを強く指導しています。参考文献の探し方をマニュアル化しなければいけないと思っているのですが、主要文献を見てその巻末にあるものをまず探す、図書館に行ってサブジェクトカタログで探す。現在は、インターネットで随分見られますし、文献情報センターでキーワードをいれるとかなり出てきます。海外の資料も多少お金がかかりますが出てきます。それから、経済学文献年報を手繰ります。文系図書館であらゆる学部の文献を揃えるのは不可能ですから、やはり今の主要な学問分野の文献と資料、政府関係資料は必要です。図書館の充実というのはこれから重要ではないかと思えます。

司会 図書館の運営に携わる者として謙虚に耳を傾けなければいけないことです。卒論を書く場合のインフラ部分ですから。図書館は大学の中で一番の情報基地でなければならないと思います。卒論の新しい情報入手手段であるインターネットの利用はどうでしょう。

植草 情報通信に関する教育は良く出来ていて、学生は、インターネットで新しい資料の入手、図表を作成するのも非常に上手ですね。ただ、その情報資料だけに頼ってしまっただけは駄目ですね。

司会 足を使っての情報収集も大切です。ホットな情報、例えば政府の審議会の意見書などの入手は便利ですね。工学部はどうですか？

清澤 大学の紀要などは載っていますが、企業の研究などはあまりインターネットには載っていません。



清澤 文彌太 (工学部機械工学科教授)

高城 文学の分野では論文に活用するのは難しいかも知れませんが、将来は期待できると思います。

司会 資料集めが済んだ、それでは論文を書くという本題が残っています。ここで苦勞をするのではないのでしょうか。

三宅 論文というのは基本的に言えば序論、本論、結論で構成されていますが、そのコンセプトが結構難しい訳ですね。序論では問題の所在を明らかにし、それから問題提起があることを把握しなければならない。本論に入った時はデータがあって自分の所見、意見がある。それを積み上げて結論に行くということの一つ一つ行います。私の授業では論文の書き方の指導を教科書を使いながらおこないますが、『大学生と留学生のための論文ワークブック』という結構良い教科書があります。

清澤 工学部でもそのような授業をしてほしいですね。

高城 最近は本離れの傾向が強いものですから、論文の中には優れている者もいますが、主語、述語という基本的なことが出来ていない人が多くいます。論文は「である」体でよいのに「です・ます」体で書いたり、「である」と「です・ます」が混入していたりします。情報化社会がもっと発展していくと思

いますが、本を読まないから自分の持っている言葉、語彙というものが多くありません。すると論文を書く時、作文のようなものを書いてしまいます。「論」は「論じる」部分が大切なことから、その貧困さを補うためにはもっと図書館の利用をし、本を読みなさいということになるのだと思います。

司会 世の中では、『日本語練習帳』という本が売っていますが、文章を書くというのは学生に限らず社会人でも苦手意識があるようです。社会に出てもレポートや報告書を文章にすることが要求されるので、やはり良い文章を書こうとするなら作品をたくさん読み、書くという普通の練習も大切ですね。

清澤 最近は就職試験で作文が多く出題されるので、時々練習で書かせます。しかし、小学校以来作文を書いたことがないという学生が多く戸惑ってしまう。私たちも専門ではないのですが、資料をもとに指導します。3、4回書くとか何とか普通の文章に近づきます。特に国語が嫌いという理由で理系を選んだという学生が多いものですから。

植草 文章は一生の修行ですから、私は文章に関して次のように指導しています。① 短文を書くこと ② 的確に内容を表現すること ③ 書いた文章を声を出し読むこと ④ 主語・述語を明確にしなければな



植草 益 (経済学部経済学科教授)

らないこと ⑤ 動詞を動詞として使うこと、「なされる」、「なす」などと言う文章はよくない。動詞が主語になった文章で社会科学的な論理的なものが説明できるはずがない。以上のことを心掛け、卒論が出来たら最低3回推敲しなさいと言っています。

司会 社会科学・自然科学では下手なレトリックはいらぬということですね。

では、最後に学生への一言をお願いします。

高城 国文学に関する『…必携』という基本的な路線を必ず踏まえる。学生の卒論向けのアドバイス誌がありますから、それらから指針を得る。常にメモ用紙を持っていて、卒論に関係したことを思いついたらすぐにメモをとる。人はすぐに忘れてしまいます。種々の時にヒントが湧くものです。それがメモによって卒論に活用できると思います。

清澤 工学部の場合、日々の実験の積み重ねですので、毎日メモを取る。それが卒論を書く時非常に役に立ちます。失敗したケースでもなんでもよいから、きちんとメモして最後にリサーチすれば、まとまったものができます。

三宅 人間は普段気が付いたり、疑問に思ったりすることがあると思うのですが、自分が気付いたことを大事に育てて欲しい。

植草 自分の指導教員の論文を読みなさい。そこには、参考文献、引用したときの出典の書き方等、きちんとしたものが載っています。それを一生懸命読めば論文の書き方は大体分かる。特に指導教員というのは自分の勉強したい分野の先生ですから、出来れば全部読む。それが一番いいですよ。

司会 これは、指導する側にとっても非常に厳しい言葉です。背中で教えるということでしょうね。有益なお話をありがとうございました。この座談会が卒論作成の救世主になればと思います。

国立国会図書館に行ってきました。

座談会の中にも登場した国立国会図書館。行ったことがある人はまだ少ないでしょう。そこで今回、皆さんよりひと足先に国立国会図書館へ行ってきました。取材日 平成11年8月2日(月)



千代田区永田町、国会議事堂の向かいにある木々に囲まれた灰色の建物、それが国立国会図書館です。

国立国会図書館が、本学図書館や公共図書館と大きく違う点は次の3点です。

1. 利用者が満20歳以上の人に限られていること。
2. 館内利用のみで、借りることができないこと。
3. ほとんど閉架式で、閲覧したい本を申し込んで書庫から出してもらおうこと。

—利用の仕方は？

国立国会図書館は、図書を中心とした本館と、雑誌・新聞を中心とした新館とに分かれています。入館時に図書館内での様々な手続きに必要な、学生証に似た“利用カード”の発行を本館受付で行います。

利用カードを受け取り中に進むと、図書目録ホールと呼ばれるスペースが広がり、その中央奥が図書カウンターです。ここでは、自分が閲覧したい図書について、カード目録・和図書CD-ROM・OPACを使って検索することができます。そして、検索した図書のタイトルと請求記号が申し込む際に必要となります。

まず、利用カードを使って、申込用紙となる資料請求票を発行機で発券し、いよいよ検索開始。今回は、OPACで検索してみました。

著者名に本学出身の「坂口安吾」と入力し、和図書の検索に設定して実行キー。すると、25件の検索結果が出てきたので、一番古い作品である『いのちがけ』をカウンターに申し込むことにします。タイトルをクリックすると、画面には資料請求票の書式が現れ、請求記号が示されます。先ほど発券した資料請求票にこの請求記号とタイトル・名前を記入して、利用カードと共に図書カウンターへ申し込みます。待つことしばし。この日の待ち時間は約30分。書庫から図書が出てきたら、カウンター上部の電光掲示板やフロア内のモニターに自分の利用カード番号が表示されるので、カウンターで利用カードを提示して本を受け取ります。先にあげたように、この本は館内閲覧のみで借りることはできません。閲覧後は、利用カードを持ってカウンターへ返却します。

—新館にも行ってみた

新館4Fには、現在の新聞から過去の新聞の縮刷版、マイクロフィルム、新聞の切抜資料を収めた新聞閲覧室があります。今年度の新聞は地方別に書架に並んでいて、自由に閲覧できます。ここで複写を依頼してみました。

複写には、即日複写と後日出来上がる複写とがあり、申込用紙を添えた新聞を持って新館1F複写カウンターへ申し込むと15分ほどで複写ができあがりました。複写料金はA4・B4で1枚35円、A3で1枚70円。新聞の全面複写は1枚300円です。(いずれも外税)

複写カウンターのある新館1F第3閲覧室に「電子メディア室」という文字。ここでは、和・洋雑誌の記事・論文索引をCD-ROMで検索できます。

—利用してみよう

この他、官報を置いた法令議会資料室(本館5F)や、地図室(本館4F)、楽譜・CD・LDのある音楽・映像資料室、参考図書室(本館2F)などがあります。

国立国会図書館の様々な資料をうまく利用するポイントは、「自分が必要な本は何かをはっきりさせ、その本について調べておく」ことでしょう。資料によって、置き場所も閲覧を申し込む場所も違うので、「何を見たいのか」が決まっていなくて無駄な時間を過ごすことになってしまいます。OPACやCD-ROMで検索はできますが、プリンターがなく打ち出すことはできませんし、資料請求時間や複写受付時間が決まっています、ある程度の時間を要するので、検索ばかりに時間をかけることはできません。

そのために、まずは大学の図書館へ足を運び、冊子になっている「国立国会図書館蔵書目録」やJ-BISCというCD-ROMで、本当に国立国会図書館に所蔵されているかを確認してから利用するとよいでしょう。

国立国会図書館

東京都千代田区永田町1-10-1 TEL 03-3581-2331 (代表)
 営団地下鉄 永田町駅・国会議事堂前駅下車

- 閲覧時間 9:30~17:00
- 資料請求時間 9:30~11:50 12:30~16:00
- ホームページ <http://www.ndl.go.jp>

年間企画

キャンパス

めぐり

—第2回 板倉図書館—

板倉キャンパスが誕生したのは、1997年（平成9年）の春でした。それから、早いもので3年目をむかえています。東武日光線の新設駅「板倉東洋大前」駅で下車、駅前に広がるニュータウンを貫く幅40mの道路を直進すると、約10分でキャンパスです。この間の道路には、レストランやスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどがきれいに建ち並んでいます。キャンパスの門を入り、1号館を後に2号館と食堂棟を抜けると、そこが板倉図書館です。

さて、図書館の建物ですが、正面から見た外観が印象的です。玄関前に学祖井上円了の胸像、そして12本の円柱が玄関を囲むように半円状に立ち並んでいます。各円柱の上には照明灯があり、夕暮れになるとあかりが灯り幻想的な雰囲気を醸し出すという、心憎い演出です。玄関を抜け一步館内に足を踏み入れると、正面に四聖像が飾られています。館内は1階が、参考図書や雑誌、AV、情報検索、ブラウジングの各コーナー及び閲覧席があります。また、新設した「教員著作コーナー」の書架が学部別に並んでいます。AVコーナーのブースでは、LDで最新の映画等が見られますので人気となっています。2階は、一般図書や、新聞・雑誌のバックナンバー、そして閲覧席になっています。それに、「スペース・トリトン」とい

って独立した学習室がありますので、有効にご利用ください。2階からは、晴れた日に遠く赤城や日光の連山が一望でき素敵な眺めです。

蔵書については、国際地域学部という幅広い学問と、生命科学部という先端分野を研究する両学部の特徴を踏まえ資料を充実させていく方針です。近い将来には新設学科や大学院の設置が検討されるなど、さらに大きな展望が開けており、そのためにも蔵書のより一層の充実をめざしてまいります。資料の内容も堅苦しい本ばかりではなく、軽読書やAV資料等で、気軽に利用できる資料の収集をはかっています。希望の図書資料があれば、リクエストも受け付けていますのでカウンターへお申し出ください。

板倉図書館は、地域の人にも開放しています。この夏も中・高生を中心に多くの方に利用されました。また、新設後間もないだけに注目されています。地理的にも群馬、埼玉、茨城、栃木の境界にあり、都内からも含め多くの見学者に訪れていただいています。

環境抜群の板倉図書館ですが、もうひとつ自慢のものがありません。それは明るいスタッフです。わからないことがあれば、何でも聞いてください。今、板倉図書館は、熱気にあふれています。

蔵書紹介

『日本誌』 エンゲルベルト・ケンペル著

英訳初版 全2巻 1727年 仏訳初版 全2巻 1729年
蘭訳初版 1729年 独語原著初版 全2巻 1777~1779年

本書は、1690（元禄3）年9月にオランダ東インド会社派遣のオランダ商館付医師として来日した。ドイツの医学者・博物学者エンゲルト・ケンペルが著わした日本風物誌である。彼は、1692年10月の離日までの2年間に2回、商館長の参府に随行して江戸に上っている。彼の多方面にわたる知識と教養に裏打ちされた鋭敏な観察眼は、上は將軍から下は庶民にいたる日本社会の各層におよび、当時の日本の風俗・政治・経済・宗教・歴史・地理から各種の動植物にいたるまでの広汎な観察記述をもたらした。みずから挿図の下絵まで描いてまとめられた本書は、当時出色の正確な日本情報として高く評価されている。なお、本書のドイツ語原著は英訳本（1727年刊）の50年後の出版、という経緯がある。本学にはこのドイツ語原著のほか、英訳・仏訳・蘭訳が初蔵されている。日本語訳は、『日本誌—日本の歴史と紀行』として出版されている。



（出典：東洋大学所蔵資料目録）

お知らせ

●朝霞キャンパス新入退館システム

朝霞キャンパスでは、9/1(水)から入退館システムをリニューアルし、入館の際に**学生証・身分証明書・図書館利用カード**が必要になりますので、忘れずに携帯してください。

●夏季長期貸出の返却について

夏季休暇中の長期貸出の返却日は下記の通りです。

- ・白山 10/4(月)・朝霞 9/27(月)
- ・工学部 10/4(月)・板倉 10/5(火)

毎年返却に遅れる人が多く見受けられます。卒業論文作成などのために予約されている場合がありますので、必ず返却日までに返却してください。

●後期(秋期)期間中の開館時間について

各キャンパスの開館時間は下記の通りです。

白山	月～金	9:00～21:30
	土	9:00～20:00
朝霞	月～金	9:00～19:00
	土	9:00～16:00
工学部	月～金	9:00～18:00
	土	9:00～16:00
板倉	月～金	9:00～18:00
	土	9:00～13:00

なお大学祭期間中は下記の通りです。

●閉館

- 板倉 11/5(金)～8(月)
- 白山・朝霞 11/11(木)～15(月)

●短縮開館

- 工学部 11/11(木)・12(金)・15(月)
9:00～17:00
- 11/13(土) 9:00～13:00

冬季休暇期間中の開館日程については、各キャンパスカレンダー・ホームページ等でお知らせします。

●朝霞分館の個人視聴覚室にDVDとビデオ増設

朝霞分館3階の個人視聴覚室に、DVD15台とビデオ10台が増設されました。DVDプレイヤーは、一台でLD・CD・DVDが利用できます。今回の増設で40ブースの全てでLD・CD・ビデオの視聴が可能になりました。25ブースでDVDの視聴ができます。今後ソフトも購入しますのでぜひご利用下さい。

●図書返却方法について

東洋大学付属図書館で借りた図書(雑誌・視聴覚資料を除く)は4キャンパスいずれの図書館のカウンターおよびブックポストでも返却できます。雑誌・視聴覚資料は、直接借りた図書館のカウンターに返却して下さい。また、閉館日・開館時間外でもブックポストで返却できますのでご利用下さい。返却日を過ぎると貸出停止になりますので注意して下さい。

貸出停止期間＝延滞日数×冊数

●マナーについて

- *館内での飲食、喫煙、携帯電話、PHSの使用は禁止しています。飲食物は持ち込みも禁止です。また、携帯電話・PHSは入館前に必ずスイッチを切りましょう。
- *談話・談笑・騒音等、他の利用者の迷惑にならないよう、エチケットを守りましょう。
- *次に借りる人のために、返却期限を守りましょう。

●訂正

コスモス126号に下記の訂正箇所がありましたのでお知らせします。

- *P2 下部表中の白山AV資料 14,927→14,877
- * " 白山ビデオテープ 2,370→2,320
- *P3 " 板倉 DVD→スライド

ΚΟΣΜΟΣ(コスモス)とは、宇宙または世界を意味するギリシャ語です。「ΚΟΣΜΟΣ」は「図書館ニュース」というタイトルで1966年6月1日に創刊号が発行され、1971年6月15日発行の通巻14号からタイトルを「ΚΟΣΜΟΣ」に変更して現在に至っています。